

今後の三番瀬自然環境調査

三番瀬鳥類経年調査

同調査は三番瀬海域及び周辺地域の鳥類の飛来状況を、連続して飛来数を計測することによって、より詳細に把握することを目的とする。

調査は通年で毎月2回、出来るだけ大潮の干潮時に、三番瀬及びその周辺地域4箇所を対象として、ラインセンサス法または、定点調査法を用いて、鳥類の種類別個体数を計測する。

なお、スズガモについては、正確な個体数を把握するため、11月から3月までの三番瀬海域3地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）において、同一日、同一時刻に一斉カウントを行う。

底生生物及び底質環境調査

同調査は三番瀬の底生生物（マクロベントス）の生息状態、底質及び水質環境が、過去に実施した調査と比べて変化しているかどうかを確認することを目的とする。

調査は春（5月）、夏（8月）、秋（11月）、冬（2月）の4季調査及び、青潮等の発生後に影響調査として、計5回の調査を行う。

1 底質環境及びマクロベントス調査

海底の表層を採泥し、ともにマクロベントスと底質を調査する。

2 水質調査

三番瀬内外海域で海水を採水し、水質及び植物プランクトン・動物プランクトン（二枚貝幼生）を調査する。

3 干出域生物生息状況調査

6月の干潮時に、干出した範囲において干潟表面でみられるカニ類等の生息状況について調査する。

4 水環境モニタリング

水質の自動計測機を用い、三番瀬海域の主要地点において、7月中旬から10月中旬までの間、水温、塩分、濁度、クロロフィル、溶存酸素、流向・流速について、連続して計測する。

5 解析・考察

底生生物（マクロベントス）の生息量、分布、貝類の殻長組成、底質環境及び水質環境が過去の調査時から変化しているかどうかを比較する。

変化が認められた場合には、その度合いを算出して変化の程度を評価し、その原因を総合的に考察する。

また、水環境モニタリングデータから、1時間ごとの観測データを作成し、調査期間内に発生した貧酸素水塊の発生状況と経過を把握するとともに、青潮の発生による底生生物の影響について考察する。

魚類着底状況

同調査は、三番瀬海域における着底稚魚の生息状況を調査し、魚類が三番瀬という場を生活史の中で種毎にどのように利用しているか把握することを目的とする。

調査は通年で毎月1回、水深が最も浅くなる大潮干潮時の3時間前から1時間後の間で行う。

稚魚の生息場等を考慮して岸寄りの各地点の2水深（10～20cm、50～70cm）で押し網（口径、縦 30cm、横 150cm、目幅 2mm）を汀線に平行に1 m／秒程度の速さで約 100m 押して着底稚魚を採集する。

着底稚魚は全ての種の同定、種ごとの個体数・総湿重量の計測を行う。

個体毎の体長・湿重量を1水深毎に全ての稚魚を計測する。（1種の個体数が20個体を超えたときは、その種について無作為に20個体を抽出する。）